

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 神崎市 (都道府県:佐賀県)

1. 当該地域の情報 (令和3年2月現在)

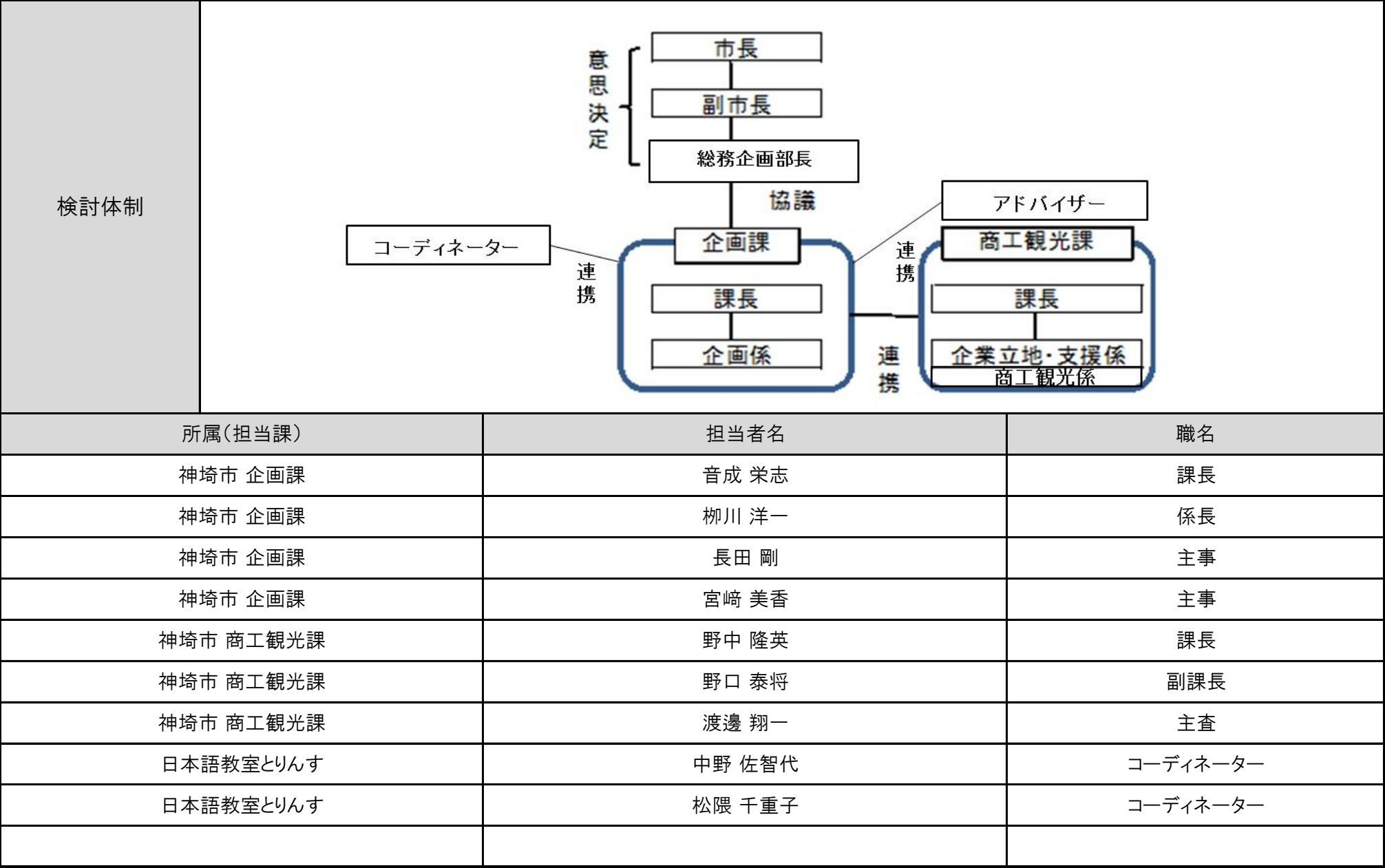
地域の課題	市内在住の外国人住民数が増加しているが、地域社会との接点が少なく、外国人住民の孤立が懸念される状況である。また、外国人住民の生活を支える行政サービスや関係機関との連携を促進する必要がある。
在住外国人数 外国人比率	在住外国人数 261人 外国人比率 0.837%(神崎市人口 31,189人)
在留外国人の 状況	【主な国籍(人数)】 ①ベトナム(160) ②中国(29) ③フィリピン(21) ④韓国(15) ⑤インドネシア(11) ⑥ミャンマー(10) ⑦タイ(4) ⑧モンゴル(3) ⑨ネパール(2) ⑩アフガニスタン・オーストラリア・台湾・トルコ・アメリカ・スペイン(1) 【在留資格(人数)】 ①技能実習(145) ②特定活動(57) ③永住者(26) ④技術・人文知識・国際業務(10) ⑤日本人の配偶者等・特別永住者(7) ⑦留学(5) ⑧家族滞在(2) ⑨経営・管理・教育(1) 【滞在年数・在留期間などの状況】 新型コロナウイルスの影響により、特定活動が全体の約22%へ増加している。短期滞在者である技能実習生及び留学が全体の約57%、永住者及び特別永住者は約13%である。
在住外国人の 日本語教育の現状	平成29年度までボランティアによる日本語教室が開催されていたが、平成29年度で終了し平成30年度から日本語教室空白地域となった。一部の企業においては独自に日本語教育を行っているが、その他の学習者については、市外の日本語教室への参加を余儀なくされている状況である。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目			
事業の目的	持続可能な日本語教室の運営を図るため、日本語教室の試行を実施し、運営体制、学習内容、開催時間等について検証を行う。また、市職員や市民への多文化共生に関する理解を促進する。			
事業の概要	(1)日本語教室の運営に向けた協議 ・コーディネーター会議を開催し、日本語教室の試行に向けた準備を行った。 (2)職員及び市民に対する多文化共生の理解促進 ・イベントブース及び市報等による広報を実施した。 (3)日本語教室の試行 ・外国人住民に対して、日本語、日本の文化、ルールなどを学ぶ場を提供した。			
事業の対象期間	令和2年4月～令和3年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	・日本語教室実施体制の構築 ・日本語教室開設に向けた準備・検討(アドバイザー会議 2回/年、コーディネーター会議 11月より1回/月) ・外国人住民対応について学ぶ職員研修会の実施(2回/年)			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	中野 佐智代	日本語教室とりんす	メンバー	学習ニーズの把握、学習の計画・準備、ボランティア養成
	松隈 千重子	日本語教室とりんす	メンバー	学習ニーズの把握、学習の計画・準備、ボランティア養成
	柳川 洋一	神崎市企画課	係長	連絡調整、事業企画立案、広報等
	宮崎 美香	神崎市企画課	主事	連絡調整、事業企画立案、広報等
	渡邊 翔一	神崎市商工観光課	主査	連絡調整、事業企画立案、広報等
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	平高 史也	慶応義塾大学	名誉教授	継続新規(2年目)
	中東 靖恵	岡山大学	准教授	継続新規(2年目)
	深江 新太郎	NP0多文化共生プロジェクト 学校法人愛和学園 愛和外語学院	代表 教務長	継続新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月		・教室試行のための調整	
令和2年 5月		・教室試行のための調整	
令和2年 6月	○事業計画書(案)作成 ○第1回アドバイザー会議(事業計画書に関する意見交換)	・アドバイザー会議	★事業計画について検討
令和2年 7月	○事業計画書提出	・日本語教室の試行計画	
令和2年 8月			
令和2年 9月			
令和2年 10月			
令和2年 11月	○実施団体情報交換会(オンライン) ○コーディネーター会議(教室の学習内容について)	・コーディネーター会議(1回) ・学習の計画・準備	
令和2年 12月	○試行の準備 ○コーディネーター会議(日本語教室の試行について)	・コーディネーター会議(1回)	
令和3年 1月	○試行の準備 ○コーディネーター会議(日本語教室の試行について) ○日本語教室の試行①(神埼市内の公共施設について)	・コーディネーター会議(2回) ・日本語教室の試行及び検証	
令和3年 2月	○試行の準備 ○コーディネーター会議(日本語教室の試行について) ○日本語教室の試行②(公共交通機関の利用について)	・コーディネーター会議(3回) ・日本語教室の試行及び検証	
令和3年 3月	○試行の準備 ○日本語教室の試行③(地域のボランティア活動参加) ○第2回アドバイザー会議(今年度の事業報告及び来年度における事業計画について)及び検証 ○事業完了報告書提出	・アドバイザー会議 ・日本語教室の試行及び検証	事業報告及び来年度の事業計画について検討(オンライン)

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		(仮)神埼日本語教室					
外国人参加者について		[国籍]ベトナム1名, インドネシア2名, フィリピン4名 [属性]技能実習生が主な対象			参加者数 (内 外国人数)		受講者10名 支援者14名 (コーディネーター8名、ボランティア6名) ※上記は、すべて延べ人数
開催時間数		総時間 3 時間			内訳 1.5時間 × 2回		
目標		外国人住民に対して、日本語・日本の文化・マナーやルールなどを学ぶ場を提供する持続可能な教室とする。					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2021年1月31日(日) 10:00~11:30	1.5	神崎市役所	3	神崎市内の公共施設について	・主催者あいさつ ・自己紹介 ・公共施設について ・行ってみたいところ発表 ・雑談	コーディネーター 4名 ボランティア 2名
2	2021年2月21日(日) 10:00~11:30	1.5	神崎市役所	7	交通機関の利用について	・自己紹介 ・アイスブレイク ・公共交通機関について ・行ってみたいところ発表 ・雑談	コーディネーター 4名 ボランティア 4名
3							
4							
5							

【主な活動】



日本語教室の試行
(2021年1月31日_神崎市内の公共施設について)



日本語教室の試行
(2021年2月21日_交通機関の利用について)



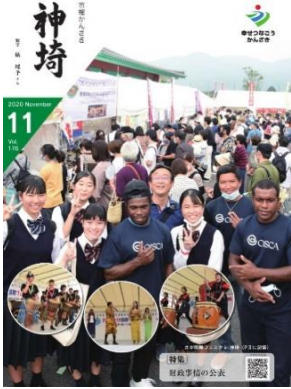
日本語教室の試行
(2021年2月21日_交通機関の利用について)

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	受講者によって、日本語能力に個人差があり、個別の対応が必要となる場合もあるため、ボランティアの確保が課題である。来年度当初より、早急にボランティアの募集及び養成を行う。
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
さが国際フェスタ	令和2年10月4日 11:00～16:00(5時間)	年々増えゆく外国人住民との共生を目指すこと及び日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、佐賀県国際交流協会が主催する「さが国際フェスタ」を神崎市で開催し、同じ地域で生活していながらも顔を合わせる機会のなかった外国人住民と日本人住民との間に新たな交流を創出した。なお、来場者は1,400名程度おり、当市の取組を説明し理解促進に一定の効果があったと考えられる。

【主な活動】



さが国際フェスタ
(市報掲載_表紙)



さが国際フェスタ
(ブースの様子)



さが国際フェスタ
(ステージイベントの様子)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人のニーズ調査等が不足したが、計画とおりに日本語教室を試行することができ、概ね計画通りに事業を実施することができた。
事業推進にあたり問題点と対応策	日本語教室に携わるボランティアの確保が課題である。来年度当初より、早急にボランティアの募集及び養成を行う。
成果	日本語教室を試行することにより、外国人住民の新たなニーズやボランティア養成の必要性に気付くことができた。また、日本語教室の試行及びさが国際フェスタの開催により、日本人住民と外国人住民、外国人住民同士の交流を促進できた。
地域の関係者との連携による効果	佐賀県国際交流協会と連携し、さが国際フェスタを開催したことにより、日本語教室への取組及び多文化共生に対する理解を市民へ周知することができた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(3H) ②日本語教室開設及び運営のための調整(7.5H) ③教材作成に向けた調整(12H) ④その他(3.5H) (具体的な内容:日本語教室の実施時間)
アドバイザーの主な助言	【第1回アドバイザー会議_2020.6.29】 ・運営体制は、①コーディネーター1名(人事、調整等を担当)②日本語教師数名③ボランティア数名という体制等を考えてみてはどうか。 ・コーディネーター、日本語教師、ボランティアの役割分担を明確にした方が良い。 【第2回アドバイザー会議_2021.3.3】 ・詳細な年間計画を組む必要がある。 ・神埼市の日本語教室の方向性を明確化する必要がある。
今後の課題	①運営体制(コーディネーター等の役割の明確化・ボランティアの確保等)を強化する。 ②広報(市報等)及びイベントブース(11月の市民交流祭等)などにより、日本人住民に対して多文化共生への理解を促進する。 ③広報(市報等)及びイベントブース(11月の市民交流祭等)などにより、日本語教室への参加者を確保する。 ④運営経費等を算出し、4年目以降の予算を確保する。
今後の予定	①毎月1回程度、日本語教室を試行する。 ②広報(市報等)及びイベントブース(11月の市民交流祭等)などにより、日本人住民に対して多文化共生への理解を促進する。 ③広報(市報等)及びイベントブース(11月の市民交流祭等)などにより、日本語教室への参加者を確保する。 ④当初予算の要求時期(11月)までに運営経費等を算出し、4年目以降の予算を確保する。

本件担当 ： 神埼市役所企画課企画係